

台風第20号、21号に対する農作物の事前・事後対策

令和元年10月21日
農業技術課

台風第20号は、21日12時現在、足摺岬の南南東約250キロにあって、1時間におよそ55キロの早さで北東に進んでいます。

中心の気圧は985ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は30メートル、最大瞬間風速は45メートルで、中心から半径70キロ以内では風速25メートル以上の暴風となっています。また、中心から半径240キロ以内では風速15メートル以上の強い風が吹いています。

台風第20号はこの後、温帯低気圧に変わり、12時間後の22日0時には、潮岬の南南東約90キロの北緯32度50分、東経136度10分を中心とする半径70キロの円内に達する見込みです。

また台風第21号は、21日10時現在、マリアナ諸島にあって、1時間におよそ30キロの早さで北西に進んでいます。

中心の気圧は970ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は35メートル、最大瞬間風速は50メートルで、中心から半径70キロ以内では風速25メートル以上の暴風となっています。また、中心から半径220キロ以内では風速15メートル以上の強い風が吹いています。

台風第21号はこの後、12時間後の21日21時には、マリアナ諸島付近の北緯15度40分、東経146度35分を中心とする半径40キロの円内に達する見込みです。

最新の台風情報、気象情報に注意し、被害防止のための事前・事後対策の徹底をお願いします。



台風の中心が予報円に入る確率は70%です。

○共通事項

- ①気象情報に注意し、事前対策を早め実施する。台風が接近した場合には、強風等による人的被害の危険性が高まるので、大雨や強風が収まるまでは、見回り等を行わない。また、大雨が収まった後でも増水した水路その他、危険な場所には近づかないなど安全には十分注意し、転落、滑落事故に遭わないように慎重を期す。
- ②ハウス等については、強風に備え、金具等の緩みなどを点検、補修を行い、マイカ線などによる被覆資材の固定、妻面の補強など、暴風対策を実施するとともに、飛来物による損傷を防止するため、周辺で強風によって飛ばされる恐れのあるものは、あらかじめ片付けておく。また、農機具庫や作業小屋等についても必要な補修や強風対策を行う。
- ③収穫期を迎えた農作物については、集出荷施設等の指示に従って収穫を行うが、未熟なものは収穫しない。

○果 樹

【事前対策】

- ①冠水、滞水の恐れのあるほ場では、排水路の点検、補修、整備を行う。
- ②傾斜地では、樹冠下の土壌流亡を防ぐため、敷ワラや敷草を行う。
- ③収穫が終わったほ場では、シルバーマルチ等は回収する。収穫前のほ場では、強風によりマルチが飛ばされたりしないようにマルチ押さえを補強しておく。

< 棚栽培果樹 >

- ①強風による棚のゆれや倒壊を防ぐため、つか杭を追加設置する。また、棚の点検も行い傷んだ部分は補強する。特に、隅柱や周囲柱の控え線の緩み等を点検する。
- ②外周に防風網を設置し、園内に吹き込む風を和らげる。なお防風網は、強風で捲り上げられないよう結束等をシッカリしておく。
- ③収穫前及び収穫中のブドウでは、大雨による裂果を防ぐため排水対策を徹底する。
- ④簡易雨除けにおいて被覆中のほ場では、強風でビニールが飛ばされないよう、補強を行う。

< 立木果樹 >

- ①倒伏や主幹部の損傷を防止するため、支柱などで固定する。帆柱が設置してあるモモ園等では針金を点検し補修する。
- ②カキ、リンゴなどの果実がある園では、枝揺れによる傷や落果を防ぐため、風の当たりやすい枝を中心に支柱などにより固定する。
- ③モモせん孔細菌病の秋季防除が未実施の場合は、防除を実施する。
(台風前に防除が出来なかった場合は、天候回復後直ちに防除を行う)

< 施設果樹 >

- ①施設栽培では、棚やパイプ等の骨材の点検を行い、必要に応じて補修や補強を行う。サイド等のビニールが、まくられないようにマイカ線等の点検を徹底する。
- ②ブドウの雨除けハウスでは、施設の倒壊を防ぐため、風が強くなる前にビニールを巻き上げる。

【事後対策】

- ①園地が滞水した場合は、速やかに排水対策を行う。また、傾斜地で根元の土壌が流亡した場合は、土寄せを行う。
- ②樹が倒伏した場合は、台風通過後直ちに、根を切らないように樹を起こし、根元に土を寄せ支柱等で固定する。
- ③太枝が裂けた場合は、裂傷部をビニールで覆い、縄等で結束する。なお、裂傷がひどい場合は、裂傷部を平らに剪除し、ゆ合剤を塗布する。
- ④ブドウでは、カサの外れ等の見直しを行う。また、葉ズレ、カサズレ、打撲のひどい果粒は摘粒する。
- ⑤落果した果実は、病害の伝染源となるため、速やかに園外へ持ち出すか、土中に埋める。
- ⑥ほ場を見回り、果実腐敗病が発生している場合には、速やかに除去する。特に、ブドウでは裂果が発生しやすいため丁寧に見回る。
- ⑦強風や雨により、枝葉や果実等への損傷や泥のはね上がりなどから、病害の発生が心配されるため、防除暦等にしがった薬剤防除を行う。また、収穫後のほ場においても、防除暦に従い薬剤防除を徹底する。
- ⑧施設栽培では、棚やハウスの骨材、ビニール、各種の装置、機具、機械等を点検し、破損のある場合は修理する。

○野菜

【事前対策】

- ①ほ場周辺の排水路を点検、補修、整備し、排水路からの逆流防止のため、ゴミ等を取り除く。また、ほ場内には、排水溝を設ける。
- ②風の強く当たる地域では、ほ場周辺に防風ネットを設置する。
- ③ハウスや雨除け施設などの支柱や基礎などを点検、補強するとともに、ビニールがまくられないようにマイカ線等を点検し施設の被害防止に努める。
- ④強風による飛ばし物で、ハウスなどの施設が損傷を受けないように、周辺の清掃や防風ネットを設置する。
- ⑤ナス、トマト、キュウリ等は、倒伏を防ぐため、支柱の補強、固定、誘引等を行う。
- ⑥収穫期を迎えている果実は、台風情報に注意し、必要に応じ速やかに収穫する。

【事後対策】

- ①滞水しているほ場は、速やかに排水を行う。
- ②茎葉の損傷や泥のはね上がり、汚水の浸入等により、疫病、菌核病など病害の発生が懸念されるため、防除基準に従って薬剤を散布し、病害の発生を予防する。
- ③ナス、キュウリ、トマト等は、キズ果を早めに除去し、樹の負担の軽減を図る。

○花き

【事前対策】

- ①野菜の事前対策①～④に準拠して、被害防止に努める。
- ②露地切り花は、フラワーネットや支柱などの点検・補強を行い倒伏防止に努める。
- ③鉢花の露地ベンチ栽培では、ベンチに固定できる鉢利用（C鋼鉢）や穴あきトレーを利用するなど倒伏防止に努める。

【事後対策】

- ①滞水しているほ場は、速やかに排水を行う。
- ②露地切り花が倒伏した場合は根を切らぬように引き起こす。
- ③茎葉の損傷により、疫病、白さび病、灰色かび病など病害の発生が懸念されるため、防除基準に従い予防散布を徹底する。

○水 稲

【事前対策】

- ①浸水・冠水害を防止するため、排水路の点検、補修、ゴミの除去を行う。
- ②事前に水口、排水口をふさぎ、水の流入を防ぐ。
- ③収穫まで期間のあるものについては、水を深めに張り、株元を保護する。

【事後対策】

- ①収穫までに期間のあるもので、倒伏した場合は、数株ごとに引き起こして束ねる。
- ②収穫時期に達しているものについては、排水に努め、早めに収穫を行う。
- ③稲架が倒伏した場合は、なるべく早めに引き起こし、乾燥に努める。

○大 豆

【事前対策】

- ①ほ場周囲に排水溝を設置する。
- ②滞水しやすい部分には、あらかじめ溝切りをする。

【事後対策】

- ①滞水しているほ場は、速やかに排水を行う

○畜 産

【事前対策】

- ①畜産施設については、損傷、倒壊等を避けるため早めの点検を行い、必要に応じて補修を行う。
- ②畜産施設への浸水の恐れがある場合、溝を掘るなどして排水に努める。また、畜舎への浸水等による家畜への被害に備え、事前に避難場所の確認などを行う。
- ③停電や断水等への対応を確認し、必要に応じて発電機等の手配をするとともに、搾乳作業やバルククーラーの冷却に支障のないよう、万全を期す。

【事後対策】

- ①飼料作物
・冠水や浸水等の被害を受けたほ場においては、速やかな排水に努める。

- ・飼料用トウモロコシの倒伏及び茎の折損等が著しく回復が期待できない場合は、青刈り利用またはサイレージ調製を行う。
- ・サイレージ調製時には、乳酸菌等添加剤を利用し安定した発酵促進を図るとともに、利用の際は、飼料分析を実施しサイレージの発酵品質等の確認を行ってから家畜に給与する。

②家畜

- ・個体観察の徹底、疾病の早期発見と蔓延防止に務める。
- ・冠水等によって変質した飼料は廃棄し、飼料タンク内の点検や飼料庫の通風を促す。

③畜舎

- ・天候が回復した後、直ちに畜産施設内及びその周辺の排水を行う。
- ・堆肥舎、牛舎から流出した堆肥や家畜ふんは、速やかに回収し消石灰等散布を行い、悪臭等の発生抑制に務める。
- ・雨水等の流入により濡れた敷料は除去し、乾燥した敷料に交換する。
- ・畜舎内外の消毒を徹底し、疾病等の未然防止に努める。